2014/10/01

**一般社団法人日本調理科学会**

**平成26年度**

**『次世代に伝え継ぐ　日本の家庭料理』**

**調査ガイドライン**

**研究目的**

日本調理科学会では、平成21 年・22 年度の特別研究として「行事食」についての調査研究を行いました。「行事食」についての特別研究を実施した背景には、農業人口の減少、輸入食品の増加、食の外部化、核家族化、飽食の時代となった現代、先人の知恵が凝集した食べ物、すなわち郷土の料理を家庭で作る機会が減り、伝統的な地域の料理が親から子へ伝承されない傾向にあることがあげられます。また、これらの伝統的な郷土料理は、風土に根差しているばかりでなく、生活に喜びを与え、家族や地域社会の絆を深めるとも考えられ、後世に残していく一助となればとの願いから特別研究を実施してきました。

　今回の研究は、伝統的な地域の料理が親から子へ伝承されにくい傾向にある現代に鑑み、聞き書き調査を通して、次世代に伝え継ぐ家庭料理を、その暮らしの背景とともに記録することにより、各地域の家庭料理の研究を深める基礎研究とするだけでなく、家庭、教育現場でも利用され、次世代へ伝え継ぐ資料ともなり得る意義ある研究とすることを目的とします。また、次の段階で本として出版できるような資料を得ることを目標にします。

各地域の家庭料理については、すでに数多くの書物が刊行されています。しかし、それぞれの料理に関わる暮らしの背景を加えた全国的な調査は、『日本の食生活全集』などにみられるものの、現代についての調査はほとんどみられません。全国各地域に残されている特徴ある料理について、聞き書き調査を通して地域の暮らしの背景とともに記録すること、また、その中から次世代に伝えるべき家庭料理を選択し、広く社会に公開することは、本学会にふさわしい特徴ある研究と考えられます。

**調査の概要**

1. **調査地域**

支部を中心とした全国47都・道・府・県（以下　県と略する）に研究組織をつくり、調査地域を決定し、平成24～25年度に一部またはすべての調査を行った。平成26年度には未調査地域について引き続き調査するとともに、平成24～25年度に調査報告書で報告した地域についても、研究発表につなげるため、また本の出版に向けて引き続き調査することが望ましい。

**２．調査内容**

　各地で育まれた家庭料理を伝え継ぐことを目的に、聞き書き調査を通して地域の暮らしの背景とともに全国各地域に残されている特徴ある料理について記録し、『次世代に伝え継ぐ　日本の家庭料理　調査報告書』を作成する。『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』（仮題）の出版を目標とする。

**３．調査方法**

（１）**日本の家庭料理の定義**

**日本の家庭料理の定義は、**各地域の自然環境の中から育まれた食材を中心とした(用いた)日常食または行事食などで、1960～1970（昭和35～45）年頃までに定着していた地域の郷土料理とする。

（２）聞き書き調査

１）聞き書き調査とは

　　　聞き書き調査は、各地域で育んできた料理とその背景を知るために実施し、話し手の思い出のある料理や伝えたい料理について、歴史的な由来や食材や調理法などをその暮らしとともに聞き書き記録するものである。聞き書きは、「語り手と聞き手が対話を重ね、文字に残らない語り手の生活や思いなどを聞き出し、文章化していく共同作業」である。「事情聴取」のような、聞き手の一方的なものとならないような配慮が必要である。

２）聞き書き調査の対象者

　　　聞き書き調査の対象者は、原則として、その地域で生まれ育ち、その地で30年以上居住した60代（できれば70代以上の方）で、家庭の食事作りに携わってきた人とする。

聞き書き調査は、一地域においてできれば複数の話し手に対しておこなうことが望ましい。

聞き書き調査の対象者を依頼する場合、地域の食に詳しい栄養改善協議会、食生活改善協議会など地域の組織にご協力いただくと良い。また、組織の方に調査協力者として一緒に話を聞いていただくと、方言や地域特有の話を補足説明いただくなど、聞き書き調査が円滑に進められることが多い。

３）聞き書き調査の準備

聞き書きを実施するにあたり、すでに刊行された資料などから、調査地域の特徴、家庭料理とその特徴などをあらかじめ調査しておき、聞き書きを実施する際の予備知識を得ておく。

　　＊調査資料リストの作成

各地域の食事、料理や地域の食生活に関する先行研究・資料などについての書誌情報を収集し、県ごとにリスト（**調査資料リストと称す**）を作成する。エクセルファイル（調査資料入力ファイル）に入力する。平成26年度の**調査資料リストは、**平成24～25年度に作成・提出した各県の調査資料入力ファイルに追加し、平成26年度でまとめたものを提出する。

**調査資料リストに入力する内容は、**

全国統一した調査資料リストファイルに、通し番号、①調査研究員番号、②都道府県名、③地域名、④編著者名、⑤執筆者名（編著者・著者が複数の場合にはその全員、または　空白＋他をつける）、⑥書名（単行本、雑誌、報告書等）、⑦シリーズ名、⑧発行所名、⑨発行年（西暦）とする（不明な項目がある場合は、入力しなくてもよい）。

調査研究員番号については前回の行事食調査の番号を使う。今回不参加者は欠番とし、新しい参加者には続き番号で番号を付与する。

４）聞き書き調査内容および報告書の作成

　　　聞き書き調査は、調査項目（調査項目　例）を参考に行い、調査票（調査票様式１、調査票様式２）を利用して記録し、地域ごとに『次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理　調査報告書』（聞き書き調査報告書）にまとめる。

４　　調査計画と調査結果の提出期限（平成26年度）

平成26年6月1日　　　　　　シンポジウム開催。

平成26年7月　　　　　　　　調査資料リストと平成24年～25年度調査報告書は調査研究員へ送付する。

平成26年8月～　平成27年3月末

　　　　　　　　　　　　　　　日本調理科学会員に調査参加を再度呼びかける。

平成26年6月～平成27年4月末

　　　　　　　　　　　　　　　調査資料リストの作成と聞き書き調査の実施、また、平成24～25年度の聞き書き

の補充調査と、出版に向けて家庭料理を選定し、料理リストをエクセルで作成する。本の出版準備を行う。

平成27年4月末　　　 　　　調査資料リストと調査報告書の原稿を調査研究員・調査グループで地域ごとに作成し、県責任者に提出。県責任者は、県毎にまとめて平成27年4月30日(木)までに支部責任者に提出。支部責任者は県単位のファイルを支部ごとにまとめ、家庭料理委員（家庭料理メルアド：voice@jscs.ne.jp）に5月15日（金）までに提出する。最終的に5月31日（日）までに入稿を終了する。

５．謝礼

聞き書き調査の対象者には、何らかの謝礼をする方が良い（金額、品物は、県や調査研究員、調査グループにまかせる）。

６.経費

平成26年度の研究経費は、200万円である。平成24～25年度の調査報告書製本代・郵送代等を差し

引いた金額を、平成25年度と同じく支部責任者を経て分配する。調査研究員により事情は異なるので、フレキシブルに使えるようにする。領収書は前年度と同様、県責任者が保存しておく。

７．倫理委員会

日本調理科学会に倫理委員会は設置されていないので、聞き書き調査対象者には、協力説明書を用いて研究の目的などを説明し、同意を得て（同意書に署名）聞き書き調査を実施する。同意書は、県責任者が保存する。